

第2号 バージャー病 NEWS

2010年2月1日発行
発行：NPO法人バージャー病研究所
〒302-0118
茨城県守谷市立沢 980-1
TEL 0297-47-9955
FAX 0297-45-4541
http://www.keiyu.or.jp
E-mail: info@keiyu.or.jp
発行者：岩井武尚
編集：川上杏葉・宮口順一

バージャー病(ビュルガー病)の軌跡

バージャー病(ビュルガー病)を、この世界から、この地球から追放しようというのが私たちのスローガンです。

Burjer 病またはバージャー病は医学関係ではこう呼びますが、厚生労働省関係では依然としてビュルガー病と呼んでいます。英語読みとドイツ(オーストリア)語読みが混在しています。実はバージャー病はほんとの「?」の英語では「バーガー」と発音します。あのチーズバーガーなどのバーガーです。この混乱は、まさに不便そのものですが、いずれ統合されると信じています。日本語名では閉塞性血栓血管炎と決められています。これもなかなか呼ぶ人が少なくなっています。

前回はバージャー病の歴史をひも解きました。タバコが新世界・新大陸アメリカから伝わり、いろいろな現在の不幸の種をまいたといっても過言ではないでしょう。バージャー病ではタバコは病気を増強する、または病気を広める中間悪玉といっています。性病(梅毒)も新大陸からやってきたといわれています。

たばこは日本には1543年ころ伝わり、もともと薬草を煙にして吸う習慣があったわが国に、瞬く間に広がったようです。薩摩藩や江戸幕府では禁煙令なるものもでて、吸ったら死刑という極刑もあったようです。

タバコがバージャー病のシンボルのような悪癖ですが、江戸時代末期から「脱疽」と呼ばれて病気の存在が知られていたことがわかっていきます。昭和の喜劇王のエノケンがこの病気で足を失ったことは有名ですが、もともと昔、江戸時代末期から明治にかけて活躍した歌舞伎役者三代目澤村田之助もこの病気で手足を失いました。

彼は、日本で初めて義足をつけた日本人としても有名です。安政6年(1859)三代目を襲名した田之助は16歳で立女方となり、美貌と才能に恵まれ一世を風靡します。(皆川博子「花間」表紙)



錦絵が残っています(写真)。義足を浴びたといわれています。しかし明治3年(1970)左足も切断となり、タバコもやめられず、さらに右手を手首から、左手は小指を残してすべて切断となり、小説によると発狂状態となり35歳でなくなったといわれています。

彼が亡くなった1878年は、ウイーンのウィニワーター先生が世界で始めてバージャー病患者の切断足を病理学的に研究して発表した年でした。

日本での本格的な研究は1889年芳賀らによるものなどに始まると思われ、戦後も厚生省、厚生労働省などの援助により組織的な研究が続けられています。

前回は理事長岩井武尚を紹介したので今回は理事佐藤先生を紹介したいと思います。

佐藤先生は、左足背にかなり深い潰瘍ができ長く点滴などを行っていたようです。そのころはそのまま潰瘍は治らないのではないかと心配していたようですが、その当時に振り返ってなにか考えることがありましたか？

(KSさん)

私の初診当時(平成19年)は、左足背にかなり深い潰瘍ができ長く点滴などを行っていたようです。そのころはそのまま潰瘍は治らないのではないかと心配していたようですが、その当時に振り返ってなにか考えることがありましたか？

初めてお会いしたのは平成19年でした。すでに3年が経過しましたが、若いころの一番の悩みは何でしたか？

(KSさん) 足が冷たく、長く歩けなかったということがあります。特に山はつらかったです。早くから抜け歯が多く、多くの歯を失いました。

タバコを35歳でやめられましたが、どんなきっかけでやめられたのですか？

(KSさん) 30歳以前から血管造影を受けたら、診断がついていたので、タバコをやめるよう自分で努力していました。やはり自分の意思が大切だと思います。

今年22歳でバージャー病を発症し、35歳で禁煙した現在63歳の男性KSさんとの一問一答です。



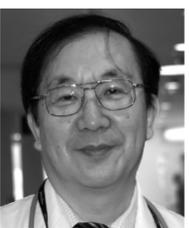
私はいつまでかある

第一回 目の右足切断は1867年にアメリカ人宣教師で医師のヘボンが横浜で行ったとされておりその錦絵が残っています(写真)。



義足を浴びたといわれています。しかし明治3年(1970)左足も切断となり、タバコもやめられず、さらに右手を手首から、左手は小指を残してすべて切断となり、小説によると発狂状態となり35歳でなくなったといわれています。

彼が亡くなった1878年は、ウイーンのウィニワーター先生が世界で始めてバージャー病患者の切断足を病理学的に研究して発表した年でした。



佐藤先生は、左足背にかなり深い潰瘍ができ長く点滴などを行っていたようです。そのころはそのまま潰瘍は治らないのではないかと心配していたようですが、その当時に振り返ってなにか考えることがありましたか？

(KSさん) 30歳以前から血管造影を受けたら、診断がついていたので、タバコをやめるよう自分で努力していました。やはり自分の意思が大切だと思います。

今年22歳でバージャー病を発症し、35歳で禁煙した現在63歳の男性KSさんとの一問一答です。

初めてお会いしたのは平成19年でした。すでに3年が経過しましたが、若いころの一番の悩みは何でしたか？

(KSさん) 足が冷たく、長く歩けなかったということがあります。特に山はつらかったです。早くから抜け歯が多く、多くの歯を失いました。

タバコを35歳でやめられましたが、どんなきっかけでやめられたのですか？

(KSさん) 30歳以前から血管造影を受けたら、診断がついていたので、タバコをやめるよう自分で努力していました。やはり自分の意思が大切だと思います。

告知板10：第二話
アレックス・アレンさん
1928年にバージャー病の研究成果を発表した人
かれはよく観察しました。

アレックスさんは英語ではAllenです。1928年にバージャー病の研究成果を発表した人かれはよく観察しました。



その結果、一人一人がいりくちな感染源を持つていることがわかったのです。現代では考えられないことですが、なぜかという医学部では所見として「のど」はみるけど「歯」はみないのが常識・習慣となっていたからです。わが国にあるバージャー病研究の論文集

にも歯や歯周についての記載は皆無です。アレックスさんは、バージャー病患者では歯周に炎症の多い人が多いこと、前立腺炎の人も多いことを報告しています。この研究はわれわれの研究に勇気を与えてくれたことは確かです。

ちなみにアレックスという検査があります。これは手に入り込む2本の動脈のうちどちらかでも詰まっていると簡単にわかる検査です。この検査がバージャー病の診断に大いに役に立っていることはいまでもありません。

今年この「バージャー病ニュース」(無料)を購読ご希望の方は、NPO法人バージャー病研究所までご連絡ください。個人情報保護責任を持って管理いたします。

佐藤先生は、左足背にかなり深い潰瘍ができ長く点滴などを行っていたようです。そのころはそのまま潰瘍は治らないのではないかと心配していたようですが、その当時に振り返ってなにか考えることがありましたか？

(KSさん) 30歳以前から血管造影を受けたら、診断がついていたので、タバコをやめるよう自分で努力していました。やはり自分の意思が大切だと思います。

今年22歳でバージャー病を発症し、35歳で禁煙した現在63歳の男性KSさんとの一問一答です。

初めてお会いしたのは平成19年でした。すでに3年が経過しましたが、若いころの一番の悩みは何でしたか？

(KSさん) 足が冷たく、長く歩けなかったということがあります。特に山はつらかったです。早くから抜け歯が多く、多くの歯を失いました。

タバコを35歳でやめられましたが、どんなきっかけでやめられたのですか？

(KSさん) 30歳以前から血管造影を受けたら、診断がついていたので、タバコをやめるよう自分で努力していました。やはり自分の意思が大切だと思います。

今年22歳でバージャー病を発症し、35歳で禁煙した現在63歳の男性KSさんとの一問一答です。

アレックスさんは英語ではAllenです。1928年にバージャー病の研究成果を発表した人かれはよく観察しました。

今年この「バージャー病ニュース」(無料)を購読ご希望の方は、NPO法人バージャー病研究所までご連絡ください。個人情報保護責任を持って管理いたします。

佐藤先生は、左足背にかなり深い潰瘍ができ長く点滴などを行っていたようです。そのころはそのまま潰瘍は治らないのではないかと心配していたようですが、その当時に振り返ってなにか考えることがありましたか？

(KSさん) 30歳以前から血管造影を受けたら、診断がついていたので、タバコをやめるよう自分で努力していました。やはり自分の意思が大切だと思います。

今年22歳でバージャー病を発症し、35歳で禁煙した現在63歳の男性KSさんとの一問一答です。

初めてお会いしたのは平成19年でした。すでに3年が経過しましたが、若いころの一番の悩みは何でしたか？

(KSさん) 足が冷たく、長く歩けなかったということがあります。特に山はつらかったです。早くから抜け歯が多く、多くの歯を失いました。

タバコを35歳でやめられましたが、どんなきっかけでやめられたのですか？

(KSさん) 30歳以前から血管造影を受けたら、診断がついていたので、タバコをやめるよう自分で努力していました。やはり自分の意思が大切だと思います。

今年22歳でバージャー病を発症し、35歳で禁煙した現在63歳の男性KSさんとの一問一答です。



TVCとは
Tsukuba Vascular Centerの略。
上に筑波山を入れ左からアテローム血栓のある大動脈、中動脈、弁のある中静脈、そして大静脈と並んでいます。

NPO 法人バージャー病研究所

NPO 法人バージャー病研究所は、平成20年に設立されました。依然原因不明とされる難病に光を当てて、患者の皆さんに元気を取り戻していただこうと考えています。最新の知識を活用すること、血管全体に目を向けることなど、血管病の研究を深めていきます。

- バージャー病研究所として研究しているのは以下のような病気です。
- 動脈疾患
 - 閉塞性動脈硬化症
 - バージャー病
 - 動脈瘤
 - 機能的狭窄
 - 静脈
 - 静脈瘤
 - 深部静脈血栓症 (エコノミー症候群)
 - リンパ浮腫
 - レイノー病
 - 膠原病



バージャー病「一口知識」

バージャー病患者を訪ねて、一昨年と昨年、スリランカとバングラデッシュを訪問して講演や診察をしてきました。特に患者さんの歯周病の程度が、当地ではどのくらいなのかとても興味がありました。両国とも歯学部がある大学病院と連携をとって、訪問にこぎつけました。こちらも東京医科歯科大学の歯学部歯周病科の先生と仲良くして訪問したわけです。行って驚いたことは、どちらの国でも安くて刺激の強いタバコをすっている人がバージャー病患者で多かった。入院中はやめても退院するとまた吸って切斷範囲を広げているようです。何人かの口の中を、歯学部の先生と一緒に診ましたが若いのに重症の歯周病を持つた人がいました。タバコをやめている人は、はるかにきれいな口の中でした。口はわずらいの元なり。